自治労本部第151回中央委員会
組合員一丸で『えさきたかし』必勝

中央委員会で力強く決意を述べる「えさきたかし」参議

参議院議員 えさきたかし

仲間の姿を支えにたたかう

公務員バッシングが激しかった2006年、福岡県本部書記長だった私が、組合員にむけて送ったメッセージ『俯くなかれ』という詩に、熊本の仲間が曲をつけてくれた。

４月18日に熊本を訪問した際、筆舌に尽くしがたい避難所生活を一生懸命守っている仲間の姿があった。

私は、地域を支え、命と暮らしを守り、国をも支えている自治労の仲間に支援されている。このたたかい、絶対に勝たなければならない。

暴走する安倍政権により、平和と地域が崩壊されている。「いい加減にしろ」という強い怒りで一杯である。

本来なら、85万人の全組合員全員と会ってお願いしたいがそれはできない。本当に厳しいたたかい。みなさんの力を貸してほしい。自治労の代表として全力でたたかう。

自治労の底力が問われる

参院選をはじめ当面する取り組みを確認した＝５月26日、甲府市

５月26～27日、山梨県甲府市で「自治労本部第151回中央委員会」が開かれ、道本部から25人が参加した。中央委員会では、人勧期闘争や政治闘争などの当面の闘争方針、男女がともに担う自治労運動の推進などについて確認した。

川本中央執行委員長は「政府・与党は『火消し』『争点隠し』をしようとしているが、参院選は『消費税10％への引上げ』『憲法改悪』が争点となる。改憲の発議に必要な3分の2の議席を何としても阻止しなければならない。公務員への圧力が続くなか、自治労の底力が問われる。組織内『えさきたかし』の圧勝にむけて、組織内が一丸となって取り組んでほしい」と呼びかけた。

道本部からは難波副委員長が、本部方針を支持し補強する立場で発言し、配偶者の扶養手当の廃止問題や、人事評価制度について人事院・総務省対策を求めた。また、臨時・非常勤等職員の賃金・処遇改善の取り組みから組織化につなげた経過と今後の決意、さらには、参院選で『えさき』の圧倒的勝利にむけ全力をあげる決意を述べた。

全体では、参院選組織内『えさきたかし』必勝にむけた取り組み、新採対策、組織強化・拡大について発言があり本部方針が補強・可決された。

発言する難波副委員長

戦争法の廃止求める全国署名
1200万筆突破

多くの国民が反対するなか、昨年9月19日に、強行採決の末に戦争法が成立した。安倍首相は、7月の参院選で憲法改正に必要な3分の2の議席の確保をめざしていることは必至であり、平和主義を貫いてきた日本は今、かつてない危機に瀕している。

このような情勢のもと、「戦争法」を廃止し、安倍政権による憲法破壊を阻止するため、「戦争法の廃止を求める統一署名」を昨年11月から実施し、1，200万筆（道本部62，638筆）を突破した。5月19日には、その一部である200万筆の署名を国会に提出した。最終的には6月末に衆参両議長、内閣総理大臣に提出する。目標である2000万筆めざし取り組みを強化しよう。

めざせ！2000万筆

■集約数（５月19日現在）

〔全道〕 786,497筆
うち道本部 62,638筆

〔全国〕 12,000,000筆
うち自治労 936,000筆

北海道自治労

全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北６西７北海道自治労会館
電 話 011-747-3211
ＦＡＸ 011-700-2053
編集・発行 佐々木直人

朔風

政府が18日、安倍首相が掲げる「1億総活躍社会」にむけた国民会議を開き、中長期計画「ニッポン1億総活躍プラン」をまとめた。「同一労働、同一賃金」「最低賃金を時給1000円」「保育士・介護職員の賃金改善」「給付型奨学金」「児童扶養手当の第2子以降の引き上げ」など、主要政策の多くが、民進党のマニフェストとそっくりである。自民党は主要政策を参院選の公約にも入れる考えだが、明らかに「争点潰し」のための政策「絵に描いた餅」である。

えさきたかし奮闘記 人の明日を咲かせよう⑭

函館交通労組に訪問し意見交換＝2015年10月29日

５地本に訪問
多くの出会いに感謝

2015年10月26日、北海道の単組訪問のため、鹿児島から一路、女満別空港に到着。降り立つとそこは「白銀の世界」。30度近くの暑さの鹿児島から移動してきた私にとっては衝撃と感動であり、あらためて日本全国が選挙区である参議院の比例代表選出の責務の重さを再確認しました。

網走地本の単組訪問では職場のほか副町長とも面談をさせていただきました。

十勝地本・渡島地本では八雲町・北斗市の2ヶ所で、国政報告会を開催。あふれんばかりの参加者のなか安保関連法など国会でのやりとりについて報告しました。

日高地本の訪問ではマイナンバー制度による混乱など職場の実態について、胆振地本では、診療報酬見直しの公立病院への影響、中央集権化への危惧など率直に意見交換させていただきました。

役員・関係者の皆様のご協力で、多くの方々とお会いできましたことにあらためて感謝申し上げます。

働く者・生活者、そして自治労の代弁者として、現場の声や住民の思いをしっかりと受け止め、活動してまいります。

十勝で開催した国政報告会の様子＝2015年10月26日

えさきたかし
総決起集会 in 北海道

〔とき〕6月12日（日）12：30～
〔ところ〕ホテルポールスター札幌

18歳になる。まず投票

選挙に行こう

今年7月に行われる参議院議員選挙から、これまで20歳以上だった選挙権が18歳以上に引き下げられる。わたしたちの社会、暮らし、将来をどうするか。それを決めるのは、わたしたち一人ひとりの「一票」にかかっている。人まかせにせず、まず「投票」。政治に参加し、世の中を変えていこう。

視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用出来ない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等の製作をすることを認めます。その際は著作権者、または、出版社まで御連絡ください。

女性の力で『えさき』『圧勝』へ

特集 男女がともに担う自治労北海道運動

女性役員を配置し単組の組織強化

6月は男女平等推進月間

道本部は男女平等推進闘争を通年闘争として取り組んでいるが、6月を推進月間と位置づけている。

5月24日、札幌市・自治労会館で、三浦・道本部書記長、西野・空知地方本部副委員長（深川市職労）、森川・上川地方本部書記長（旭川市職労）、森下・道本部企画総務部長（士幌町職）、森川・十勝地方本部書記長（十勝町職）、森川・上川地方本部副委員長（旭川市職労）、森下・企画総務部長が『男女がともに担う自治労運動』をテーマに、『今後どう運動をつくっていくか』を対談した。

女性役員を配置する意義を、それぞれの経験や視点で語り合った（写真左から）小林さん、三浦道本部書記長、森川さん、西野さん＝5月24日、自治労会館

西野幸恵・空知地方本部書記長

『女性』を意識せず専従に

（三浦）西野さんは去年の4月から専従に？

（西野）単組の女性部から自治労運動に関わり、いろいろな接点ができた。そのまま、単組基本組織の役員になった。特に『男性や女性』ということを意識せず専従に出た。

（三浦）森川さんも単組役員を担って、地方本部の専従に？

（森川）単組専従を5年ほど担った。たまたま私が女性だったということであって、単組が「女性の役員登用」を意識して選出された感じではなかった。

（三浦）小林さんは？

（小林）単組女性部から自治労運動に関わってきた。私の単組も女性の私が、たまたま専従に出たという感じ。『女性を出していこう』という感じではなかった。

女性だ、いうだけで嫌な経験も

（三浦）みなさんが、地方本部専従として出るときに思ったことは？

（森川）私の単組では、私が初の女性専従者だった。当時26、27歳ぐらいで、若いということもあり、組合員やほかの役員から『女性の言うことなんて』という雰囲気で見られて、嫌な思いをしたこともあった。それは仕事も職場も同じで、世の中全体がそうだと感じる。私は、あまり気にせずやってこられたから今があると思う。

（西野）私が地方本部専従に出るときは、時間もなく、急遽出たという感じ。単組副委員長や地方本部執行委員も担っており、地方本部の経過や事情も分かっていたので、出ないという選択肢はなかった。

「専従に出る」となったときに、「独身で子どももいなくて身軽」だというのは、ほかの人よりも出てくる決断は簡単だった。

森川裕美・上川地方本部副委員長

森下・道本部企画総務部長

三浦・道本部書記長

「ロールモデル」が多いと携わりやすい

（三浦）子育てや育児なども兼ねて労働運動をすることは難しい？

（西野）色々と選択できるような時代になったので、運動に携わりやすくなる。

（森川）「忙しい」といって組合を避けている人もいるが、私たちは暇だからやっているわけではないと思うこともある。

（西野）「男性だ、女性だ」ではないと思いつつも、地方本部書記長が女性というだけで、単組は連絡・やすくなったのではないかと感じることもある。人間関係がないとなって、多くの人とつながりができた。また、職場や単組執行部の意識が変わった。「地方本部に専従者を出しているから、しっかり頑張ろう」という意識になっている。

（地本専従に出すことを）単組は良く決断したと思うが、私は保育士なので、事務作業に関して不安だったが、当局も全面的にバックアップすると言ってくれた。単組は必死だったと思うが、職場の保育士の意識も変わり、多くの女性組合員が協力してくれるようになった。

小林康恵・十勝地方本部書記長

（三浦）仕事も同じで、気持ちの持ち方が大切。みんなが自分のできることをやることが必要。役員だけで運動していると、役員に負担がかかってくる。

（森川）役員だけで運動をしていてはだめ。

（小林）集会などへの参加の呼びかけも、組合員に「子どもの行事や塾がある」と断られる。

（森川）職場で「組合をやっている人は変な人」みたいな雰囲気があった。だから、単組専従時代は、組合は「部の人だけ（役員だけ）でやるものではない、組合やっているは変な人ではなく、『自分たちの生活や賃金・労働条件改善のため頑張っている』ということを、多くの組合員に分かってもらうように、『組合員にとう分かりやすく情報発信するか』を意識してやっていた。

（小林）地方本部専従になって、多くの人とつながりができた。また、職場や単組執行部の意識が変わった。「地方本部に専従者を出しているから、しっかり頑張ろう」という意識になっている。

（地本専従に出すことを）単組は良く決断したと思うが、私は保育士なので、事務作業に関して不安だったが、当局も全面的にバックアップすると言ってくれた。単組は必死だったと思うが、職場の保育士の意識も変わり、多くの女性組合員が協力してくれるようになった。

女性役員の選出で組織強化

（三浦）こちら側が女性と意識していなくても、女性が専従や執行部に入ることで組合員に良い影響を与える。「女性でも自治労運動を担えるんだ」と思って、周りが変わった事例は？

（西野）「男性だ、女性だ」ではないと思いつつも、地方本部書記長が女性というだけで、単組は連絡・やすくなったのではないかと感じることもある。人間関係がないと組合運動ははじまらないので、人間関係をつくるのは女性のほうが得意分野かもしれないし、女性だから踏み込める部分もある。

（三浦）声かけは大事。以外と女性のほうが、あまり立場を意識せずに言葉を発せられるかもしれない。

（森川）単組専従時代、若い女性組合員の職場の悩みを聞いて、泣きながら「森川さんが話を聞いてくれて良かった」と言ってくれたことがあった。職場でも介護事業所の指導をするところで、介護職員は女性組合員が多く、悩みを聞くのも、男性職員より女性職員を入れて、一緒に話を聞くことを心がけてやっていた。組合でもそれを意識して、男女のバランスを考えた役員の配置をしなければならない。

（三浦）それは意識的にやらないと実現しない。道本部は「女性枠」を取り入れて女性の参画を増やそうとやってきた。一方で、「女性枠を埋めることが目的」となってしまい、一般枠から女性が出てこないのが課題。

（西野）世の中が男女平等になっていないなかで、小林さんの単組のように、単組が全面的にバックアップしようという意識に変わったということは、単組の組織強化につながったということ。女性が専従や役員に出ることは、組織強化につながる。

（小林）道本部書記長が女性だというのも、単組への影響が大きい。

（三浦）私たちが自治労運動を担うことが、職場の女性たちの背中を押すことにつながればよい。

専従で単組執行部の意識変わった

（三浦）「女性活躍推進法」が施行され、「女性が働ける環境をつくろう」となっているが現実は？

（西野）いま女性の管理職登用が急速に加速して、退職前に辞める人が増えている。せっかく頑張ってきた女性の先輩が辞めるのは、若い人にとっても良いことではない。

（小林）女性労働セミナーのグループトークで、「法律を整備しなくても女性は活躍できる」という話が出て「なるほど」と感じた。安倍首相は、「法整備」を逆手にとり、聞こえの良い言葉を並べている。形から入るのではなく活動していくなかで法律の必要性を感じなければ実効性はない。

（森川）「たまたま選んだのが女性だった」というのが理想。

（西野）育児や介護は女性だけがやるものではないが、そういう背景も含めて「運動しやすい環境」をつくることが必要。

（小林）「私も自治労運動に関わろう」と思える組織・環境づくりが大切。

（森川）女性が働きづらい環境にあるということは男性も働きづらい環境にある。余裕のある職場環境をつくらないとならないのは共通の課題。

（三浦）環境整備をするためには、今の政治を変えないとならない。『えさきの浸透』にむけて、女性の力が必要不可欠。3回声かけすれば結果は出る。女性の力を結集し、「えさきたかし」の圧勝を勝ち取ろう。

女性の感覚を自治労運動に

（森下）今まで自治労運動は、男性が多数で担ってきたから、それゆえの偏りやバランスの悪さはあると思う。だから、女性の役員を配置することは「新しい運動をつくる切り口」になる。女性ならではの視点で、新しい運動をつくっていってほしい。女性にはその力や感覚があることを、誇りに思って、どんどん役員を担ってほしい。

（森川）それをやるには、男性も女性も意識も変えていかないとならない。

（森下）私の単組の書記は女性。組合員からの相談は男性役員より圧倒的に多く、それはすごいと。本当は言いたいことを言えない、聞きたいことを聞けない組合員が彼女なら聞ける。その接点になってくれているのは単組として非常に大きい。

（森川）組合員の相談から課題・背景を知ることができたりする。組合における女性の役割は、本当に大事。

「誰でも関われる」環境づくりが大切

（三浦）「女性活躍推進法」の成立により、すべての自治体および従業員301人以上の民間企業において、3月末日までに「事業主行動計画」の策定が義務付けられている。JC女性委員会全本道から10人（女性7人、男性3人）が参加した。

いわゆる「女性活躍推進法」の成立により、すべての自治体および従業員301人以上の民間企業において、3月末日までに「事業主行動計画」の策定が義務付けられている。JC女性委員会は、「行動計画の策定にあたっては、非正規労働者も含めて雇用管理区分ごとに調査することや、ワーク・ライフ・バランスの観点を取り入れること」を要請した。

厚生労働省からは、政府としても『見える化』に努めていくが、行動計画が策定されているか、内容はどうかなど外側からのチェックなど周りからの検証が必要、また、民主党（当時）からは、「非正規労働者も含めた行動計画となるよう、各種委員会で質問を行い、政府に求めていく必要がある」と答弁があった。

今回の要請に基づいて民主党は、衆議院内閣委員会や参議院の予算委員会委嘱審査において、政府に対する質問が行われることとなった。

要請行動には、組織内・逢坂誠二衆議院議員も同席した

PSI-JC女性委員会の要請の様子

女性活躍推進法

「事業主行動計画」策定にあたり要請

PSI加盟組合日本協議会（PSI-JC）女性委員会は、3月3日に、3・8国際女性デーの取り組みとして政府、政党、ILO議員連盟への要請行動を行い、自治労、国公連合、自治労北海道本部の女性組合員の増減数 2009年からの推移（2012年－2009年）

	2012年 組合員総数	2012年 女性組合員総数	2012年 女性比率・%	2009年 組合員総数	2009年 女性組合員総数	2009年 女性比率・%	女性組合員総数の増減数	増減率・%
全国計	819,092	370,180	45.2	864,865	381,936	44.2	−11,756	−3.1
自治体労組計	737,204	324,638	44.0	785,199	339,427	43.2	−14,789	−4.4
都道府県職	179,316	63,239	35.3	193,706	66,247	34.2	−3,008	−4.5
市町村職計	546,473	253,936	46.5	579,560	265,110	45.7	−11,174	−4.2
県都・政令市職	171,513	76,718	44.7	143,626	60,197	41.9	16,521	27.4
市　職	303,521	145,087	47.8	357,999	169,667	47.4	−24,580	−14.5
町・村職	71,439	32,131	45.0	77,935	35,246	45.2	−3,115	−8.8
事務組合・広域連合労組	11,415	7,463	65.4	11,933	8,070	67.6	−607	−7.5
臨時・非常勤労組	11,864	11,312	95.3	12,919	12,191	94.4	−879	−7.2
公社・事業団労組	11,330	6,174	54.5	9,715	4,677	48.1	1,497	32.0
社協労組	4,352	3,145	72.3	4,243	3,060	72.1	85	2.8
団体労組	3,941	2,230	56.6	4,081	2,324	56.9	−94	−4.0
市町村共済労組	1,186	451	38.0	1,286	454	35.3	−3	−0.7
書記労・直属支部	617	281	45.5	9,627	3,441	35.7	−3,160	−91.8
全国一般評議会	20,656	6,137	29.7	23,106	7,792	33.7	−1,655	−21.2
その他民間事業所労組	27,942	15,812	56.6	14,689	8,570	58.3	7,242	84.5
全国計のうち正規職員＊	761,923	332,884	43.7	815,121	347,795	42.7	−14,911	−4.3
（全国計に占める比率・%）	(93.0)	(89.9)		(94.2)	(91.1)			
全国計のうち臨時・非常勤・嘱託等職員	39,388	31,890	81.0	34,806	29,345	84.3	2,545	8.7
（全国計に占める比率・%）	(4.8)	(8.6)		(4.0)	(7.7)			
自治体労組計のうち正規職員	706,127	308,948	43.8	758,744	325,534	42.9	−16,586	−5.1
自治体労組計のうち臨時・非常勤・嘱託等職員	14,329	12,104	84.5	13,146	10,103	76.9	2,001	19.8

＊いずれも自治体労組の複合型単組における自治体以外の職員を含む。

（1）団体区分別、雇用形態別にみた女性組合員数

－女性組合員総数は370,180人、組合員総数の45.2%、女性組合員の1割近くを臨時・非常勤、嘱託、パート職員が占める－

自治労全体の女性組合員数は370,180人で、組合員総数の45.2%を占める。雇用形態別にみると、正規職員組合員が332,884人、臨時・非常勤、嘱託、パート職員組合員が31,890人で、女性組合員の1割近く（8.6%）は職員が占めている。そして、女性比率はそれぞれ正規職員組合員で43.7%、臨時・非常勤、嘱託、パート職員組合員で81.0%となっており、非正規は圧倒的に女性が多い。

（団体区分別女性組合員数＝自治労組織基本調査2012年6月）

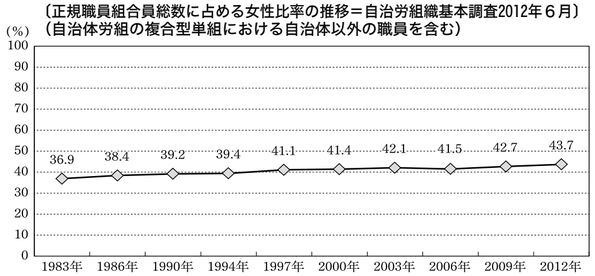
（2）正規職員組合員総数に占める女性比率の推移

－正規職員組合員総数に占める女性比率は43.7%、長期的には上昇傾向－

正規職員組合員総数（自治体労組の複合型単組における自治体以外の組合員を含む）に占める女性組合員比率の1983年調査以降の推移を示している。

正規職員組合員総数に占める女性組合員比率は43.7%である。女性組合員比率は緩やかに増加する傾向が続いている。

（正規職員組合員総数に占める女性比率の推移＝自治労組織基本調査2012年6月）
（自治体労組の複合型単組における自治体以外の職員を含む）



自治労

女性組合員の現状は？

5・19 戦争をさせない総がかり行動

事実を正しく拡げよう

総がかり行動には、市民ら約600人が参加した＝5月19日、大通公園

「戦争法」の強行採決から8カ月が経過した5月19日、札幌市内で「戦争をさせない総がかり行動」が開かれた。

山木・道フォーラム代表は「5月22日からアフリカ南スーダンへの、PKO派遣がはじまる。『駆けつけ警護』の実施は見送ったが、不安が尽きない派遣となる。憲法改正にむけた動きが活発化しているなかで、多くの国民・市民団体と連携して『戦争法』を廃止に追い込もう」と呼びかけた。

神保大地・弁護士は「安倍総理は、『私は立法府の長である』と発言した。立法府の長は衆議院議長・参議院議長だが、そう発言できるのは『なんでもできる』という誤った自信の現れ。『緊急事態条項』を発動すれば、衆議院与党は『永遠に好き放題』できることになる。立憲主義を守るためにも、7月の参院選に勝利しよう」と訴えた。

結城洋一郎・小樽商科大学名誉教授は「先日公開された『パナマ文書』では、政治家や大企業が、脱税や談合で税金逃れをしている一方で、予算不足を理由に一般国民に対して課税を強化し、福祉切り捨ての弱い者いじめの政策を強行していることが明らかになった。海外では大問題となっているが、日本政府は調査する意思はないとして、隠ぺいしている。政府・政治家・大企業・大手マスコミが一体となっているかぎりこれは報道されないだろう。私たちがこうした事実を正しく認識し、私たち市民が運動をつくり拡げていくしかない。人間らしい、やさしい世界をつくろう」と強調した。

女性の発想力活かそう

石上・自治労本部総合政治政策局長が参院選にむけて政治課題などを詳しく説明した＝5月21日、札幌市・自治労会館

道本部女性部は5月21～22日、「2016年度女性部長・女性担当者会議」を開き、79単組・総支部107人が参加した。

石上・自治労本部総合政治政策局長が「参議院議員選挙の取り組みについて」と題して講演した。

石上局長は、トップランナー方式や窓口業務の全面委託化の問題点を説明しながら、人口減少問題について触れ「人口が減少しても地方交付税が減る一方で、仕事は増えるという現状がある。住民の命と暮らしを守るために、今後、どういう仕組みであるべきか、どんな制度が必要なのか真剣に議論していかなければならない」と提起した。

分散会では、役員の担い手不足の課題が多くあげられ、解消するための手法を議論した。

最後に、上島女性部長が「他単組の仲間と議論・討論することで職場の課題に気づき改善できる。女性の発想力を活かそう」とまとめ「今の政治を変えるため、7月の参院選で『えさき』『徳永』の圧倒的勝利を勝ち取ろう」と集約した。

本神輿存続へ

地域に恩返しする思いで

地域で頑張る組合員③（留萌地方本部発）

あのマチにこんな人

本神輿が激しくぶつかり合う「練り合い」。迫力ある光景は必見です！

羽幌町職・葛西健二さん

羽幌の初夏の風物詩である羽幌神社例大祭は、110年以上の歴史があります。なかでも加賀獅子と本神輿が激しくぶつかり合う「練り合い」は「けんかみこし」とも呼ばれ、その迫力ある光景をひと目見ようと、道外からも訪れる見物客が沿道を埋め尽くします。

地元育ちの私にとって本神輿は常に憧れの存在であり、入職したその年から「担ぎ手」として参加しました。「担ぎ手」をつうじて、出会った人々とのつながりが仕事にも大いに活かされていると実感しています。

本神輿ですが、存続の危機に立たされた時期もありました。私は「地域へ恩返しをするのは今しかない」との思いで2011年から「ふるさとの神輿を守る会」会長に就任し、立て直しに奔走しています。

近年ではウェブでの情報発信や、子どもたちを対象としたイベントを企画するなど「羽幌のおまつり」がいつまでも盛り上がっていけるよう精一杯頑張りたいと思います。

子どもたちが参加できるイベントを企画し、本神輿存続の取り組みも行っている

道本部青年部長会議

仲間と日常的に関わろう

全体で18本の発言があり方針が補強された＝5月21日、自治労会館

5月21～22日、札幌市内で「道本部青年部長会議」を開き、82単組・総支部108人（うち女性16人）が参加した。

茂野・前日高地方本部青年部長が「日常的な青年部運動をつくるために」と題して講演し、日常的な仲間との関わり、信頼関係をつくることの重要性を学んだ。

全体討論では、「メンタルの仲間が退職したことをきっかけに、普段から仲間への声かけを意識して実践している。日常的な仲間との関わりが重要であることを仲間から学んだ」などの発言が出され方針が補強された。

最後に、斉藤青年部長が「日常的な運動の重要性を認識し、大胆に青年部運動を取り組もう。すべての課題は政治闘争につながる。7月の参院選で組織内『えさきたかし』『徳永エリ』の圧勝にむけて取り組もう」と集約した。

ささきさんの国会だより⑩

未来に責任果たす

衆議院特別委員会での質問に立つ、ささき隆博衆議

5月19日に発表された民進党のロゴマーク

5月14日、民進党北海道の結党大会を開き『強行・強権と強者の論理』から『誰も排除しない社会の結集軸』になる決意を確認した。

最大の課題は参院選であり、政党が国民や道民の怒りや不安に応えるため、有権者と思いを共有したうえで安倍政権の暴走を止め、平和と生活を守るたたかいに勝たねばならない。

衆参ダブルは十分ありえる。テーマは「憲法改悪」、「消費税」、「アベノミクスの失敗」を国民に問わなければならない。

民進党は、多様な価値観を共有し、誰も排除しない共生社会の実現、未来世代に責任を果たす使命に全力を尽くします。ともに頑張りましょう。

（5月23日、東京にて）

忙中余話

「NOよりYES」。詳細は割愛するが、5月8日の朝日新聞掲載の記事で、元国会議員秘書が原発ゼロ推進などにむけ選挙に携わっていくなかで得た教訓だ。もうひとつ紹介するのは、「分断社会を終わらせる」という本（井出英策慶応大教授など著）。サブタイトルは「だれもが受益者という財政戦略」。救済ではない、普遍主義の社会政策について書かれている。

なぜ、こんな社会状況になっているのか悶々とするなかで、どちらも興味深く、腑に落ちる話だった。同時に、自らの凝り固まった思考を反省したりもして。

自らの主義・主張を示すことは全体の合意を取るための大前提だ。しかし、だれもが包摂された社会を望むなら、左右上下老若男女、みんなが共感し「YES」と言える社会像を描く必要がある。

難しい道程だが、そのために微力ながら汗をかいてダイエットしようかなぁと思う今日この頃。

（連合北海道派遣・河端孝司）

JICHIROスケジュール

6月

- 3日(金)　道本部第123回中央委員会（札幌市）
- 10日(金)　連合北海道「安保法制・憲法学習会」（札幌市）
- 12日(日)　「えさきたかし」総決起集会in北海道（札幌市）

道本部ホームページ

自治労北海道 検索　組合員専用ページは　ユーザー名：minnade　パスワード：danketsu2013